

普及活動情勢報告（平成 30 年 6 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

お米を作る大切さを学ぼう ～小学5年生が田植えを実施～



田んぼで奮闘！

5月10日、おおとよ小学校は、大豊町杉で稲作体験学習（田植え）を行い、小学5年生、教員、大豊町役場など計18人が参加しました。普及所からは、大豊町で栽培されている品種、水田の持つ様々な機能（洪水を防止する、土砂崩れを防ぐ、暑さを和らげる、心身を癒やす等）を説明し、稲作の重要性を伝えました。

田植え初体験の小学生も多く、最初はぎこちない様子でしたが、徐々に田植えにも慣れてきて無事‘黄金錦’5aを植え終わりました。

田植えをした稲は、9月末に皆で収穫し、11月に給食で食べる予定です。

今後も普及所は、食育活動の一環として農業の大切さを伝えていきます。

チームワークで米ナスの収量アップを目指せ！ ～(株)れいほく未来米ナスチーム会～



米ナスの作業内容を検討中

5月29日、土佐町の(株)れいほく未来で同社職員4人、普及所3人が米ナスチーム会を開催しました。

チーム会の目的は、(株)れいほく未来の米ナス担当者3人が、栽培管理技術や生産性を向上させるために開催しており、普及所は会の運営支援や栽培上の問題点についてアドバイスしています。

今回、収穫等の作業について話し合い、担当者が、篤農家から技術や技能を習得する機会を設けることになりました。

普及所は、(株)れいほく未来の園芸品目の売上アップと栽培技術等の向上にむけた支援をしていきます。

基盤整備事業をうまく活用することで農家の生産性をあげよう ～職場研修会開催～



地域の将来を考えると
農地を守る基盤整備は
必要

5月31日、担い手への農地の集積や生産性を向上させる農地中間管理機構を活用した基盤整備事業について学ぶことを目的に、普及所、JA、本山町、大豊町、土佐町職員20人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

中央東農業振興センターの大利基盤整備課長と県農業公社の弘田チーフを講師に迎え、農業者の費用負担がかからず実施出来る農地中間管理機構関連農地整備事業の意義、事業要件、推進上の課題について学びました。

職員からは、「農業者に有利なこの事業を紹介したい」「一般的な基盤整備事業よりも町村負担が大きくなることや担い手要件の内容がよく解った」等の意見がありました。

今後は、当事業を実施予定の本山町下津野地区において、関係機関と協力して基盤整備が進むよう支援していきます。

今年もウメの収穫間近 ～伊勢川集落営農推進委員会～



集落営農推進委員会

6月4日、土佐町伊勢川集会所にて、伊勢川営農組合の集落営農推進委員会が開催され組合員8人が参加しました。

水稻の作業受託の実施状況、ウメやチョロギの栽培、梅干し加工、チョロギの収穫体験計画案について検討しました。

普及所は、ウメやチョロギの防除方法や追肥等、今後の栽培管理について指導しました。特に今年はウメの収穫適期が早まることを伝え、去年より早く収穫を始めることが決まりました。

女性組合員からは「ウメを一度に大量に収穫しても加工しきれないので、小分けに収穫してほしい」との声があがりました。

今後も普及所は、組織活動を支援するとともに、栽培管理が遅れないよう指導していきます。

夏秋トマトの病害防除にむけて ～「まもるん」を利用した病害対策実証を開始～



ミニトマト栽培ほ場

6月8日、大豊町の夏秋ミニトマト栽培農家において、病害防除コントローラ（商品名：まもるん）を利用した「すすかび病」等病害対策の実証ほを設置し、調査を開始しました。

管内では、有機 JAS 認証に基づくトマト栽培農家が多く、例年「すすかび病」等の病害発生が問題となっています。

このため、普及所では、栽培環境を制御して病害発生を抑制する対策を提案し、農業技術センター等の関係機関と連携して、実証することとなりました。

実証農家からは「装置の導入で病害防除の他、裂果防止の効果についても期待している」などの声が聞かれました。

今後、普及所は装置導入の効果を調査していく予定です。

GAP通信で農作業時の注意点を再確認しましょう！



腐敗事故に対する注意喚起

6月14日にJA土佐れいほく本所・大田口支所でシントウ部会の目慣らし会が開催され、部会員28人が参加しました。普及所では「GAP通信」を作成し、夏場の腐敗果対策と農薬選択時の注意点を喚起しました。

「GAP通信」では写真や図を多く用いたり、農薬の選択や、生産履歴について具体例を用いたりして、生産者に伝わりやすいように紙面を工夫しました。

部会員からは「GAPに取り組み始めて、作業を確認する機会が増えた」「皆で市場事故0を目指して頑張ろう」という意見がありました。

普及所は、「GAP通信」を継続して発行し、園芸部部会員のGAPへの理解を深めていきます。

平成30年度普及指導計画について協議
～第1回嶺北地区普及推進協議会～



30 年度の取組計画を説明中

6 月 18 日、普及所で第 1 回普及推進協議会を開催し、農家代表や関係機関の委員 12 人が参加しました。普及所は普及指導計画を説明し、今年度の取組について協議しました。また、中山間地農業ルネッサンス事業や中央東農業振興センター基盤整備課による農地中間管理機構関連農地整備事業の説明など、地域農業振興に関する情報提供も行いました。

委員からは「担い手の確保・育成のためにも優良な農地が必要」「山間地にあった品目の経営モデルを作っていきたい」など活発な意見が出されました。

普及所は、委員から出された意見を踏まえ、地域の農業振興に取り組んでいきます。

ユズ経営計画の作成支援 ～経営の法人化にむけて～



経営改善支援のようす

6 月 18 日、普及所でユズの大規模経営を目指す農家の経営計画作成を支援しました。対象農家とは 4 月以降、5 回の面談を通じて 5 年後の法人化計画を作成してきましたが、そのなかで収穫・調整作業の省力化や出荷期間の延長などが課題として浮上してきました。

そこで、今回はメーカー等の協力を得て、選果機や貯蔵庫導入の可否について検討しました。出荷調整に要する労賃や JA への委託費と施設導入経費を総合的に勘案すると、投資効果は十分に得られますが、農家は約 2000 万円の投資額に不安を感じているようでした。

経営規模や技術レベル、近い将来の娘夫婦の就農など、計画を実現する基盤は既にできていますので、今後は、支援策の活用など、リスク軽減策も含めて、計画実現にむけたきめ細かい支援をしていきます。

夏にむけて栽培管理を確認しましょう ～「土佐甘とう」目慣らし会～



目慣らし会の様子

6 月 20 日、JA 土佐れいほく大田口支所で甘長トウガラシの目慣らし会が開催され、生産者 3 人が参加しました。

嶺北地域では今年度から初めて甘長トウガラシを栽培するため、普及所は管内・外の甘長トウガラシに関する取組や、夏期に増加する病害虫や生理障害について情報誌「あまとうだより」を作成して情報提供しました。

生産者からは「天敵を使用する際はどのような薬剤を使用すればよいか」等の質問が出されました。

普及所は、各生産者を定期的に巡回指導するとともに、「あまとうだより」を活用して栽培技術の向上を図っていきます。